

体育

高学年 「ベースボール型ゲーム」

子どもたちが熱中する ソフトベースボールはこれだ！

1 新学習指導要領から

「易しく投げられたボールを打ったり、インニングの終了の仕方を工夫したりして、攻守交代が繰り返し行えるように簡素化されたゲームをする」—— 新学習指導要領でベースボール型の教材が位置付けられているが、なかなか現場では実践されていない。ボールやバットなどの用具がない場合もあるが、ベースボール型の教材には次のような問題点がある。

- 投げられたボールを打つのが難しい
- ストライクとボールの判定を誰がするのか？
- 運動量が少ない
- 3アウト制だと45分の中に収まらない
- 2試合同時進行だと時間差ができてしまう

2 問題点を一気に解決するルール

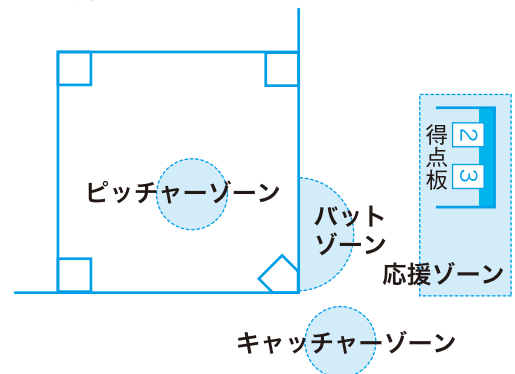
しかし、これらの問題点を一気に解決できるルールがある。それは、「**次のバッターがピッチャーをする**」というルールである。そうすると、バッターと同じチームの子がピッチャーをすることになる。結果、ピッチャーは打ちやすいボールを投げるので、バッターは打ちやすくなり、ストライクとボールの判定も必要なくなる。「3球以内に打たないとバッターアウト」というルールをつけ加えれば、ゲームの進行は早くなる。さらに、1回の攻撃を3アウト制ではなく、時間制、例えば3分とすれば、ますます進行は早くなり、攻守の交代も何回もあり、運動量も増える。また、教師の裁量で1試合を45分以内に収めることも簡単である。もちろん、同時進行の試合も同時に終了する。



3 誰もが楽しめるその他のルール

野球の経験の少ない子が楽しむために、さらにいくつかの用具やルールの工夫があるとよい。

- ボールはソフトボールと同じ大きさのノーパンクボール（グローブがなくても捕れるやわらかさで、大きいボール）がおすすめ
- バットはプラスチック製が安全
- 2ストライクになったら、テニスラケットに持ちかえてもよい（こうするとみんなが打てる）
- 打ち終わったバットをバットゾーンに置かないとアウト（バットを投げることを防ぐ）
- ピッチャーゾーン、キャッチャーゾーン、応援ゾーンを作る（こうすることで安全性を高める）
- 得点板がゲームを盛り上げる
- アウトとセーフでもめたら必ずジャンケン
- その他、困ったりもめたりしたら、子どもたちと相談しながら新しいルールをどんどん追加していく



4 おわりに

昨年度、6年生を担当し、10月に「ソフトベースボール」に取り組んだ。子どもたちはとても熱中し、11月には学習を終えたものの、ことあるごとに「ベースボールをやりたい」とクラスのレクリエーションとして続け、卒業式の前日にも、「最後の授業は、クラスみんなでソフトベースボールをやりたい」とみんなで話し合い、たっぷりとソフトベースボールをして卒業していった。そのくらい子どもたちにとって魅力ある教材なのである。